

1

みかんは寝かすと甘くなる

冬はコタツにみかんが定番ですね。ここ海津市南濃町は、日本最北端のみかんの生産地です。みかんというのは、普通寒ければ寒い土地ほど酸っぱくなってしまいます。だから愛媛県、和歌山県、静岡県などの暖かい所が名産地として知られているんです。



ではこのみかんは酸っぱくて食べられないのかな？
 というとそんなことはありません。「貯蔵みかん」といって、採れたみかんを1ヶ月以上も蔵などに寝かせておくことで不思議と甘くなってしまいます。みかんが並んでいるお店のおばちゃんに確かめてみるのもおもしろいですよ。

セルフガイドトレイル (温泉付き) マップ

～辿って伸ばそう「不思議!？」の芽～



トレイルの紹介

トレイル① ゆっくり歩いて30分くらい
 1 → 2 → 3 → 4

トレイル② ゆっくり歩いて90分くらい
 1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 6

温泉に入ったあとに回る逆トレイルもOK!

2

移り気なあじさいの七変化

あじさいの花の色には、青や紫・ピンクなどいろんな色があってとても綺麗ですね。実はこの色の「七変化」は、あじさいが育つ土の酸性度によるもので、酸性なほど青く、アルカリ性なほど赤くなるのです。

いろんな色のあじさいが咲くのは日本だけで、ヨーロッパなどではアルカリ性の土が多いためにほとんどピンクの花しか咲かないようです。



さらにあじさいの花は、雨が降るたびに色を変える「移り気」な花でもあります。開花する間(30日程度)にも白～青～紫などとまるで雨で体を洗って着替えるように色を変えていくんです。今年の月見の森にはどんな色のあじさいが咲くのでしょうか？
 ちなみに、あじさいの花言葉は「移り気」、「七変化」ですよ。

3

くすりの元は植物です

くすり(薬)という字は、草かんむりに薬しと書くように、病の時植物を飲んで薬になったことに由来しています。西洋では草のことをハーブ(HERB)といい薬用植物という意味にもなっています。薬草や薬木というと最近では専門的な分野というイメージですが、日本では昔から和法と呼ばれる民間療法(生活の知恵)として広く一般に親しまれていました。戦国の武将織田信長も伊吹山中に広大な薬草園を作っていたという記録もあります。月見の森の薬草・薬木園には、ただの雑草だと思っていたり、おいしい山菜だと思っていたものが実はくすりだった...というような植物が植えられていて、実物を見ることができますよ。図鑑も無いような頃からくすりを見つけて使っていたなんて、先人の生活の知恵には尊敬してしまう面がありますよね。



薬草・薬木園で見ることができるもの

植物名	利用する所	生薬名	薬効
アケビ	茎	木通	腎臓炎、尿道炎、利尿
イキジコウク	葉・茎	百里香	風邪、鎮咳、鎮痛(香料)
ウラシマンウ	地下茎	天南星	消炎、去痰
オオバコ	全草	車前草	咳、利尿、下痢
キキョウ	根	桔梗根	咳、去痰、咽喉炎
キハダ	樹皮の内皮	黄柏	健胃、下痢止め
ゲンバショウコ	茎・葉	ゲンバショウコ	健胃整腸剤、下痢、便秘
サンショウ	葉・果・皮	山椒	健胃、整腸、駆虫薬(葉、食用)
ジンチョウゲ	花・葉・樹皮	瑞香	おでき、喉の痛み
タラノキ	葉・根・茎	タラノキ皮	強壮、健胃、胃腸病、糖尿病
トウキ	根・茎・葉	当帰	鎮痛、血行促進、婦人病(浴剤)
ビワ	葉	枇杷葉	捻挫、打撲、蓄膿症、神経痛
フキ	根・茎・トウ	フキトウ	鎮咳、去痰、健胃薬、咳止、解毒

※色が濃くなっている種の植物は、月見の森に自然に生えているものです。探してみてもたまたま、思いこみは禁薬!よく調べるか知っている人に聞いてみよう。